令和4年度長久手市部活動検討委員会委員名簿

NO	所属	役職
1	小中学校校長代表	南中学校校長
2	小中学校PTA代表	南中学校PTA会長
3	小中学校PTA代表	南小学校PTA会長
4	小中学校代表	南小学校校長
5	生涯学習担当課職員	生涯学習課長
6	教育委員会事務局職員	教育部 次長
7	教育委員会事務局職員	指導室長
8	教育委員会事務局職員	地域コーディネーター

令和5年度長久手市部活動検討委員会委員名簿

No.	職名
1	南中学校校長・校長会代表
2	長久手中学校校長
3	北中学校校長
4	東小学校校長・小学校校長代表
5	長久手中学校PTA代表
6	南中学校PTA代表
7	北中学校PTA代表
8	市PTA代表
9	教育部次長
10	生涯学習課課長
11	指導室長

令和4年度 第1回長久手市部活動検討委員会（まとめ）

令和4年7月12日（火）

長久手市役所 会議室 G

1 議事

(1) 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について

ア 小中学校の改革について(平日)

【意見内容】

- ① 学校の日課を工夫する。(活動時間をうみ出す)
- ② 部活動の活動時間を、教員の勤務時間内とする。
- ③ 指導者を交代制にする。
- ④ 平日の部活動(小中学校)を廃止する。
- ⑤ 専門家による部活指導を行う。(教員は基本、携わらない)

【各委員から出された意見】

- ・ 小学校での部活動は廃止していく。
- ・ 平日は小中学校の部活動を実施しない。
- ・ 部活動を勤務時間までにする。
- ・ 部活動を実施できるように日課を変更する。
- ・ 部活動ではなく、習い事の一つとして実施していく。
(専門家への委託、学校施設の提供)
- ・ コミュニティースクールの早期導入する。
- ・ 専門教員の確保する。
- ・ 教員による指導を基礎的な内容にする。

イ 地域及び行政の改革について(土日祝日・平日)

【意見内容】

- ① 文化スポーツクラブやスポーツ少年団の人材を確保する。その際、指導者の質を保証する。
- ② 大学の多い地域性を生かし、大学生のボランティアを募る。
- ③ シルバー人材を活用する。(組織化していく)
- ④ 地域人材をコーディネートする部署を設置する。
- ⑤ 部活動を希望する教員の兼業を認め、実施していく。

【各委員から出された意見】

- ・ 文化スポーツクラブを活用する。
- ・ 教員の兼業を認め、リストアップする。
- ・ ボランティアを確保する。
- ・ コーディネーターとして役割を担う人材等を確保する。
- ・ 予算措置を行う。(指導者への謝金等)
- ・ コミュニティースクールの早期導入する。
- ・ 休日に指導できる部活動をリストアップする。
- ・ 大学に依頼し、指導者を確保する。
- ・ ホームページ等で人材募集を行う。

ウ 次回までの検討事項について(学校・地域及び行政)

【意見内容】

- ① 予算編成をどうするか。(謝金等がどうなるか)
- ② 部活動の種目はどうするか。(学校間で違ってよいか)
- ③ 近隣市町の動向はどうなっているか。
- ④ 保護者・児童生徒への説明はどうか。
- ⑤ どのような計画で地域移行を進めていくか。(実施可能な計画の策定)
- ⑥ 部活動指導員の人材確保はどのようにしていくか。

【各委員から出された意見】

- ・ 地域移行を進める上での計画の策定が必要である。
- ・ 教員の意識を調査する。
- ・ 部活動指導員の募集とリストアップが必要である。
- ・ 平日の部活動をなくす。
- ・ 予算をどの程度確保できるのか。

令和4年度 第2回長久手市部活動検討委員会（まとめ）

令和4年9月27日（火）

長久手市役所 会議室H

1 議事

(1) 今回提案があった小中学校の方向性について

小学校：原案を尊重

中学校：原案を尊重

(2) 方向性の実現に向け、次回までの検討事項について

【小中学校】

- ・児童生徒や保護者への周知（タイミング、内容、方法）
- ・教職員への説明（タイミング、内容）
- ・スポーツ協会等との意見交換・方針のすりあわせ

【行政（生涯学習課、教育総務課）】

- ・連携先の検討（企業、大学、団体）
- ・地域移行のスケジュールの提示
- ・長久手市全体の方向性の提案と説明会の実施
- ・学校、保護者等からのヒアリングの実施
- ・予算の規模の検討
- ・地域移行の担当部局の設置

(3) その他

【質 疑】

- 予算についてどのようになっているか。
 - ・地域移行の規模（指導者の数や部活動の数など）が決まらなると、具体的な予算設定が決まらない。
- 子どもの受け皿はどのようになっているか。
 - ・スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ、企業などが考えられる。

【意 見】

- ・学生ボランティアや地域のボランティアを指導者として確保すること、難しいのではないかと。単位を認めてもらうように依頼したり、手当を支給するなど何らかの対応が必要である。
- ・民間企業をうまく活用するとよいのではないかと。（企業が参入しやすいようにしてはどうか。）
- ・部活動の地域移行を中心で行う人材、部局を立ち上げる必要がある。
- ・教職員の兼業等の実態を把握していくとよいのではないかと。
- ・平日、休日と分けて、地域移行をしていくとよいのではないかと。
- ・地域移行が可能な部活動から実施してはどうか。
- ・中小体連などの大会への参加についてどのようになっているかを把握していく必要がある。
- ・保護者に教員の現状をしっかりと説明すると、理解を得やすいのではないかと。

令和4年度 第3回長久手市部活動検討委員会（まとめ）

令和4年11月28日（月）

長久手市役所 会議室H

1 議事

(1) 地域及び行政の方向性について

ア 連携先の検討（企業、大学、団体）

- ・スポーツ協会や民間企業へ打診している。
- ・スポーツ協会は、協力できるところは協力したいと申し出ている。しかし、全ての種目に指導者を派遣できるかは不透明である。
- ・民間企業は、現在ある運動部について、指導者を派遣できると前向きな回答をしている。しかし、費用面等の話し合いが今後必要である。
- ・文化部については、文化の家と関係のある方で、指導をできる方がいると前向きな回答がある。

イ 地域移行のスケジュールについて

- ・概ね了承していただいた。
- ・小学校の部活動廃止について、保護者への説明会は行わず、文書配布で完了したい。（他市町は部活動の廃止について、ほとんど説明会を行っていない）
- ・部活動コーディネーターについて、市としては会計年度職員として考えている。要求はしているが、財政的に厳しい部分がある。
- ・県の動向について、地域移行の方針や動向を見極めながら、生徒や教員が困らないように進めていきたい。
- ・業者の選定については、プロポーザル（地域移行の内容）で選定していきたい。
- ・業者と部活動担当者との話し合いを毎年3学期に行い、スムーズな移行を行えるようにしたい。
- ・関係機関への周知について、議会・教育委員・他部局は教育総務課、スポーツ協会・社会教育委員は生涯学習課、外部指導者は各校で行う。
- ・業者との話し合いの際、大会等での指導やけがをした場合の対応など、委託契約の中に盛り込む必要がある。

ウ 長久手市全体の方向性の提案と説明会の実施について

- ・まずは、PTA総会等で方向性を説明してはどうか。その際、教員の負担軽減を伝えると、親の理解は得られるのではないかと。

エ 予算の規模の検討について

- ・民間事業者に見積もりをとっているが、もう少し詳細が分からないといけない。
- ・活動の方向性として、中学校 平日3日間18:00～20:00、土日1日3時間程度が適当である。

オ その他

- ・合同部活にして、活動することも検討してもよいのではないかと。
- ・文化部について、現在活動している部活動の中で、廃部になる可能性がある部活動（パソコン部、英語部、文化部）がある。

- ・職員への周知は12月1日(木)、児童生徒、保護者への周知は1月6日(木)に各校そろって行う。
- ・新団体の設立について、業者に依頼するか、新設するかを検討する必要がある。
- ・部員の募集など、詳細を今後の検討委員会で決めていく必要がある。

(2) 小学校部活動の方向性について

- ・令和7年度から廃止し、地域スポーツを推奨する。
- ・廃止に向けたスケジュールは、提案の通りでよい。
- ・配布文書は、修正して各校へ配布する。(市教委が窓口がよい)

(3) 中学校部活動の方向性について

- ・提案の通り、職員へ周知していく。

(4) 次回までの検討事項について

- * 小中学校
 - ・保護者の反応の共有
- * 生涯学習課
- * 教育総務課
 - ・スケジュールの修正
 - ・業者との協議内容の共有
 - ・地域コーディネーターの設置等
- * 保護者
- * その他

令和4年度 第4回長久手市部活動検討委員会

令和5年2月28日(火)

長久手市役所 会議室8

1 教育長あいさつ

2 議事

(1) 第3回長久手市部活動検討委員会のまとめについて

1月16日に変更し、小学校 保護者文書配布

中学校教職員へ周知

中学校 生徒 ; R5 始業式、PTA 総会で伝える予定

<事務局>

R7 小学校部活動廃止 保護者からの声は？

中学校はどうするのか？という声が大多数

小学校廃止に対する声は少ない。

<小学校代表 校長>

配布前に各校長から説明のうえ、配布した。

反論少ない。放課後、どこかでやりたいという声有り。

(2) 配付資料の確認

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」

「運動部活動の地域移行等に関する実践研究事例集」

「令和5年度からの愛知県中学校総合体育大会について」

(3) 地域移行に向けた諸課題への対応について

ア 小学校部活動の課題と対応について

【質疑】

新5, 6年生はOK, 4年は募集しない。

球技大会はR6で最後

R4～ 順位争いでなく、親睦を図る大会方法を変えた。

人数不足していった場合、開催方法を検討する。

金管バンド 運動会がメインの活動の場だった

部員が減っていくが、活動・募集方法は各校の判断で運営する。

小学校の部活動検討委員会でも同様の意見が出ている。

【課題】

1 楽器の取扱い、どうするか？

→ 中学校で見ってもらう機会を作る。練習用に活用できるかも。

小中の金管バンド、交流なし。

2 文化の家で音楽の活動場所できないか？

→ 一般開放されているため部活動に施設確保は難しい。今後検討していく。

運動会の出し物は、学校で考えればよい。

3 放課後の受入れ先のキャパシティ十分か？

- 放課後子ども教室は児童クラブと共に指定管理者になると聞いている。
検討すると聞いたが、キャパが十分かは不明。
校内なら、校庭等で過ごせるが、北小ともう1校は校庭使用できない。

イ 中学校部活動の課題と対応について

【質疑】

Q 他の業者にも聞くか。

A []に聞いている。他市現状のままでは負担大。
合同部活動にすれば少し減らせる。

Q 市でまとめたチームならば、野球教えられる（職員OB）。

A どこか窓口となる担当部署が必要
課題：質と継続的な確保
運動部 何とか確保できる。
文化部 講師料が高い。

Q 南中 野球ない。部活によって3中で1つにできる。一気にやるか？試行的にできるものあるか？

A 試行的にすることは可能と考える。

[]で学生ボランティアの声は、学習面で見られる。運動・文化的な自信がない。

クラウドファンディングで小さくてもスポーツクラブを立ち上げては？

Q 指導者の確保は難しい。教員も数年で異動する人も。行政の職員は？

A 行政の職員の兼職兼業は検討に入っていない。
学生ボランティア 数年で卒業 安定しない。
安定的に確保するには、個人でない団体や企業に依頼することを検討していく。

【意見】

県大会の参加 拠点校部活動 自校にないから他校で参加（合同でない）
他校の生徒の世話もしなきゃいけないので大変。

兼業 通常の勤務の在校時間＋部活動で45時間 現実的な時間数か？

行政が管理していくことになる。

すごい金額だが、これぐらい大変なことを教員が担ってきたということ

(4) 部活動地域移行スケジュールについて（別紙）

R6 新メンバーになる夏以降に移行を考えている。

- ・引継ぎ期間が確保できる。
- ・卒業学年の部員が不安に感じない。（平日・休日との指導の継続性）

Q アンケートのどんな部活がいいか、例えばどんな選択肢考えているか？

A 文化部は吹奏楽部に偏りある。ダンス部とかあれば分散するのか聞いてみたい。

Q 夏以降の移行はどうか？

A 夏の大会に向けて、4・5月だけで信頼関係の構築や指導十分できない。
夏以降が現実的である。

Q できる部活からか？

A 希望は全部移行。予算と指導者・活動場所の実情に合わせて、R6から移行したい
と考えている。

Q モデル校？モデル部活？予算が確保できるのか？市民は期待してしまう。

A 予算は、現状から大幅増ない。
どこかで一齐にやるか、保護者負担も考えていかないといけない。
市の予算 確保していきたい。
大会参加・バス料 保護者が対応してくれれば、指導料に充てられる。

Q 特業手当が浮くが、市町に回されるか掛け合っはどうか？県は考えていないの
か？

A 県に要望をあげる際に、市町から声あがっている。

【意見】

- ・ 関連企業も巻き込んで声掛けは考えているか？ ユニフォームにロゴ入れて広告料として少しもらう。社会貢献の部署もあるし、市に恩返ししたいという企業もある。場所の提供もあるかも。
- ・ 地域移行の言葉が先行し、教員がイメージできていない。長久手市がどうするのかも不明で説明できない。教職員へのアプローチも必要ではないか。

(5) 次回までの検討事項について

- ・ 来年度からPTAを増やしていく。
委員の構成も再考し、依頼していく予定。
- ・ 市長や議会にこの会の報告する時間を作ってほしい。
- ・ 企業の社会貢献 向こうからCSRと行ってもらおう
- ・ メンバーに商工会も含めるのか。
- ・ スポ協の荷物、日中に移動した。日中に動けるメンバー少ない。学校に [REDACTED]
[REDACTED] 再委託で講師確保するのでは？ 自社で全部確保できるとは思えない。
瀬戸・旭も指定管理
- ・ プロリーグの協力 先方も勧誘できるメリットあるため、無料でイベント指導してくれることも。
- ・ 県教委が県議会で発言 人材派遣のワーキンググループ立ち上がった。期待したい。
- ・ 小中 体育館 なかなか予約取れない。中学生と一般がバッティングするのは困る。
- ・ 近隣の方も市の施設利用している。
- ・ 生涯学習課のスポーツ教室 講師料 安い。講師料を消耗品の購入充てるにも不十分な金額。
- ・ 社会貢献として募集するくらいか。

会議の名称 令和5年度第1回部活動検討委員会
日 時 令和5年6月2日(金)
午前10時から午前11時55分まで
場 所 会議室H

出席者

委員長	南中学校校長	水野和幸
委員	長久手中学校校長	名倉健
委員	北中学校校長	岡山真崇
委員	東小学校校長	福岡和
委員	長久手中学校PTA代表	■■■■■
委員	南中学校PTA代表	■■■■■
委員	北中学校PTA代表	■■■■■
委員	市PTA代表	■■■■■
委員	教育部次長	川本保則
委員	指導室長	大井雅夫
委員	生涯学習課課長 (代理課長補佐)	粕谷庸介 山田克人

事務局

指導主事	山本武史
部活動コーディネーター	中村浩章
教育総務課庶務教育係長	宇井正幸
同専門員	羽木博子

会議の公開・非公開

非公開

- 1 自己紹介
- 2 委員長挨拶
- 3 職務代理者の指名について
- 4 議事
 - (1) 部活動の地域移行について
 - (2) 昨年度の検討委員会の協議内容
 - (3) 外部団体に移行していく上で懸念されること
 - (4) 教職員及び生徒・保護者への周知について
 - (5) 今後の予定について
- 5 今後の予定
- 6 その他

1 自己紹介

名簿順に各委員事務局の順で自己紹介

2 委員長挨拶

水野委員長挨拶

3 委員長職務代理の指名

長久手中学校名倉健校長を指名

4 議事

(1) 部活動の地域移行について

事務局から地域移行についての説明

(2) 昨年度の検討委員会の協議内容について

事務局から、資料をもとに説明する。詳しく説明を行ったのは第4回について。

委員から質問

- ・指導者の確保について 指導者の定義（イメージ）は
→専門的なコーチ。単年で終わるのではなく、継続的に指導してもらえる人
- ・運営団体候補について、相手の状況は

→①民間は実績があり、運営や指導もできるが、費用がかかる。

②スポーツ協会は、今までも指導している種目もある。小学生を対象としている種目を中学生にまで広げられる可能性はある。

平日の指導は難しい。土日はできることはあるが、指導までは難しい可能性がある。

③大学については、施設は魅力的だが、使用できる時間帯は学生が利用しない時。中心は夜の利用になる。

学生に指導を頼む場合、指導料は5,000円/時間、施設を借りる場合、ホールは4時間で9万円かかる。

上記の3つのどれか1つに決めるのではなくて、併用も可能。その時に保護者の費用負担に差が出ることも考えられる。

- ・地域移行した場合、学校単位で活動するのか、3中学校をまとめて行うのか。

→現存の部活はそのまま行う。部員数が少ない部活は、1つにまとめる可能性もある。

(3) 保護者・学校関係者・行政の3グループに分け、ワークショップを実施。

討議内容

地域移行していく上での懸念材料と、できるならば解決方法を話し合う。

グループ討議

発表（別添写真のとおり）

学校

- ・現在でも部活によって温度差がある。地域移行したときに目的がどうな

るか。また、その目的を保護者がどう理解して部活に参加させるか。

- ・指導体制として、教員の中にも一定数部活に係わりたいと考える人がいる。そういう教員をどう関わらせていくか、また異動があった時に継続的に関わってくれるのかどうか。
- ・平日の夜間の活動は、照明施設がいる。
- ・生徒同士のトラブルが発生したとき、生徒指導の側面もあるので、学校生活の中で時間を使って解決している。それが、地域移行になった時にどうするのか。また、保護者同士のトラブルはどうするのか。
- ・けがをしたとき、保険で対応となるが、自治体がどれだけかかわるのか。

保護者

- ・学校の部活と習い事のの違いで、部活は教育の延長にあるもので、同学年の子どもが、クラスは違っても同じ目標に向かって協力するという仲間意識や様々な体験、経験をするという面がある。民間に委託した場合、部活動に期待するものとずれてくる。
- ・指導者は各学校に派遣してもらおう。現状をかえずに行ってほしい。
- ・安心できる先生が部活を指導してくれていたから安心して預けられた。学生になったとき、責任感はどうなるか不安。
- ・習い事と同じになる。

行政

- ・予算はどうするのか。市で負担しなければ、保護者の負担になる。その時に子どもたちに格差が生じるし、やりたいけれどできない子が出てくる。
- ・保護者の理解をどう得ていくか。→アンケートを行う。
- ・活動場所は学校中心にして考える。
- ・指導者については、学生は安定的継続的に活動ができない。また、責任の所在が不明確。

(4) 周知について、事務局案を提示

意見については、別添チラシに記載のとおり。

検討委員会名で出すのであれば、検討委員会の協議結果を知らせていく必要があるのではないかと。配布については、検討委員会で内容を確認した上で行う必要があるため、次回内容の確認を行う。

周知チラシはアンケートと同時配布でいいのではないかとという意見あり。

(5) 今後の予定について

6月30日（金）に第2回検討委員会を開催する事の確認。

(6) その他

特になし

会議の名称 令和5年度第2回部活動検討委員会
日 時 令和5年6月30日(金)
午後2時から午後4時30分まで
場 所 会議室G

出席者

委員長	南中学校長	水野和幸
委員	長久手中学校長	名倉健
委員	北中学校長	岡山真崇
委員	東小学校長	福岡和
委員	長久手中学校PTA代表	■■■■■
委員	南中学校PTA代表	■■■■■
委員	北中学校PTA代表	■■■■■
委員	市PTA代表	■■■■■
委員	教育部次長	川本保則
委員	教育総務課指導室長	大井雅夫
委員	生涯学習課長	粕谷庸介
事務局		
	教育総務課指導主事	山本武史
	同庶務教育係長	宇井正幸
	同専門員	羽木博子

会議の公開・非公開

非公開

- 1 あいさつ
- 2 令和5年度第1回検討委員会のまとめについて
- 3 議題
 - (1) 部活動の地域移行・地域連携の進め方に関するガイドラインについて
・長久手市部活動の地域移行の進め方について(別紙)
 - (2) 地域移行していく上で懸念されること
 - (3) 教職員及び生徒・保護者への周知について(別紙)
 - (4) 教職員及び生徒・保護者へのアンケートについて(別紙)
 - (5) 今後の予定について(別紙)
 - (6) その他
- 4 今後の予定

- 1 あいさつ

教育長あいさつ

2 令和5年度第1回検討委員会のまとめについて

部活動の地域移行は、国や県の方針であり、スポーツ庁、文化庁の当初の設定では、令和5年度から3年間を改革推進期間としている。長久手市も令和6年度夏から地域移行をしていく。

3 議事

(1) 部活動の地域移行・地域連携の進め方に関するガイドラインについて

・ガイドラインの説明

委員：長久手市は地域連携なのか、地域移行なのか。

事務局：民間企業やスポーツ協会と連携し、指導者の派遣、大会の参加などを委託する形で、休日の部活動を地域クラブ活動に地域移行したいと考えている。

・長久手市部活動の地域移行の進め方について（別紙）

ガイドライン P27 を踏まえ、それぞれの検討課題について各委員の考えをまとめてもらう。（14：15～14：20）

・各項目に対する意見

①運営団体・実施主体の決定

「民間8・スポーツ協会2・大学0・その他0」

・民間に委託する場合の問題点は予算（費用）、スポーツ協会に委託する場合は、指導者不足が問題になる。

・事務局として、スポーツ協会で指導できると考えられるのは（保護者から参加費を徴収することができるのは）、スポーツ少年団として現在活動しているもの（バドミントン、剣道、サッカー、バスケットボールなど）と考えている。ただし、サッカー部を3中学校を一つにまとめると100人近くになるため、活動場所の問題がでてくる。

・スポーツ関連企業だけでなく、他業種からの参画・参入を促すためにも、市としてポイント制（公共事業に入札するときプラスとなるような制度）など何か施策を考えてはどうか。

②運営スタッフの確保

「民間企業」

③参加する生徒の想定

「現在部活動に参加している生徒」

・最初のステップとして、今活動している部活を地域移行するとした方がいいと考えるので、今参加している生徒。

・事務局：新しい種目ができたときに、参加する生徒はどうするかという問題が出てくるのではないかと考えている。

④活動を行う種目、活動内容等の決定

「・競技、大会志向で特定の種目や分野に継続的に専念する活動：8

・レクリエーション的な活動：3

・障がいの有無に関わらず、誰もが一緒に参加できる活動：2」

「種目：③参加する生徒の想定と関連する項目のため、数の確認は行って
いない。」

・平日の活動は現在のままで、休日の活動を移行するということが良いか。
事務局：そのように考えている。

・休日は平日とは異なる種目（活動）でもいいのか。

事務局：国や県のガイドラインでは可能となっている。例えば、平日陸上、休日バドミントンは可能。

・現在の部活動をそのまま地域移行し、その次のステップで、今の部活動にない新しい種目を追加していく事が良いと思う。地域移行してすぐに（令和6年夏から）新しい種目やハイブリット型（平日と休日で参加する種目が異なる）の参加とすると、より煩雑になり、地域移行が難しくなるのではないか。

・長久手市は現状の部活を地域移行すると理解をしていた。新しい種目を入れていく事は、レベルの高いことだと思う。

・令和6年度に地域移行をするときに、現状の移行をまず行って、そこから種目など広げていく事にしていかないと、生徒や保護者は変化についていけない。いきなり令和6年度で種目を広げるのは難しいのではないか。

・事務局としては、子どもたちに活動の選択肢を増やしてあげたいとの思いがある。例えば「平日：美術、休日：書道」や「平日：美術（絵画）、休日：美術（造形）」など。

・改めて確認するが、部活動の地域移行の方法は地域移行と地域連携があるが、長久手市は地域移行でいくのか。

事務局：地域移行をする。

・今活動している部活を土日は地域クラブ活動として行うということにしていかないと、難しいのではないか。

・地域連携の場合、指導者は地域の人材となるが、地域の人材（ボランティアや保護者）がいない。また、かつてはバスケットは指導者がたくさんいたが、高齢化が進んでいる。種目によっては指導者がいない状況になっているので、地域移行で民間団体を入れていこうということだと理解している。

⑤活動時間、休養日等の決定

「2～3時間程度、土日のどちらか」

⑥活動場所の決定

「小中学校」

・学校内で活動をする場合に、セキュリティをどうするかが課題となる。

⑦会費・保護者等の負担

「受益者負担あり」

- ・市と保護者の負担の割合を今後考えてく必要がある。
- ・そもそも、活動内容でかかる費用の差がでてくるのは、当然のこと。

⑧指導者や生徒の保険加入

「スポーツ保険（けが）、個人賠償責任保険（物品）両方加入」

- ・事務局として、保険加入が参加の前提としていきたい。

⑨学校関係者、保護者、生徒、地域団体への周知

「学校関係者への周知：各学校長

保護者・生徒への周知：検討委員会と各学校」

地域団体への周知：市教育委員会」

- ・説明会を開催する場所は各中学校で、学校と検討委員会の両者で行う。
- ・保護者は学校からの通知であれば内容を確認するので、検討委員会と保護者の間に学校があってほしい。検討委員会からのお知らせ内容を学校が保護者に周知してほしい。

⑩生徒への募集案内

「令和6年度始めに募集案内を配布する」

- ・その他として今後の進み具合によって配布時期を決めていけば良い。
- ・地域移行した場合でも、3年生は3年夏で部活動を引退するので、配布対象は新1年生、新2年生となる。

⑪地域人材の発掘、募集、マッチング

今後、平日の活動に地域人材を活用していくとなった時に考えていく必要がある。

⑫～⑭教師等の兼職兼業制度の整備、希望調査、説明会

教員対象の内容であるため、教育委員会と学校間での協議内容。

ガイドライン P24 を参照。

⑮指導者の資質向上に係る研修の実施

指導団体に研修を依頼

(2) 地域移行していく上で懸念されること

上記(1)

- ・予算が決まるのはいつ頃か。
事務局：夏頃にはぼんやりとしたものが見えてくると思う。
- ・予算規模が分かったときに、どうするのかを考えるのか。広い範囲で行うか、一部にするかを決めても良いのか。
事務局：問題ない。

(3) 教職員及び生徒・保護者への周知について（別紙）

- ・各学校長から生徒に説明後、案内を配布する。
- (4) 教職員及び生徒・保護者へのアンケートについて（別紙）
- ・アンケートの内容は問題なし。
 - ・集計結果は公表するのか。事務局：公表していく。
- (5) 今後の予定について（別紙）
- ・地域移行のスケジュールの確認
- (6) その他
- ・生涯学習課長より、くらし文化部としての意見あり。意見の内容は別添のとおり。
- 4 今後の予定
- 第3回検討委員会 令和5年8月24日（木）午後2時～ ながくてエコハウス

会議の名称 令和5年度第3回部活動検討委員会

日 時 令和5年8月24日(木)
午後2時から午後4時まで

場 所 会議室 G

出席者

副委員長	長久手中学校長	名倉健
委員	北中学校長	岡山真崇
委員	東小学校長	福岡和
委員	長久手中学校PTA代表	■■■■■
委員	南中学校PTA代表	■■■■■
委員	北中学校PTA代表	■■■■■
委員	市PTA代表	■■■■■
委員	教育部次長	川本保則
委員	教育総務課指導室長	大井雅夫
委員	生涯学習課長	粕谷庸介
事務局		
	教育総務課指導室指導主事	山本武史
	教育総務課庶務教育係長	宇井正幸
	同専門員	羽木博子

欠席者

委員長	南中学校長	水野和幸
-----	-------	------

会議の公開・非公開

非公開

- 1 あいさつ
- 2 令和5年度第2回検討委員会のまとめについて
- 3 議題
 - (1) 教職員及び生徒・保護者アンケート結果について(別紙)
 - (2) 地域移行していく上で懸念されること
 - (3) 今後の予定について(別紙)
 - (4) その他
- 4 今後の予定

- 1 あいさつ
教育長あいさつ
- 2 令和5年度第2回検討委員会のまとめについて

3 議事

- (1) 教職員及び生徒・保護者アンケート結果について
アンケート結果について説明（資料1）

意見・質問

- ・教職員アンケートの対象者は。
→長久手市に勤務している教職員すべてを対象としている。
- ・教職員の回答率は。
→約半数ぐらい。
- ・保護者の回答率は。
→生徒全体で1,945人とする、家庭数が1,700程度で、そのうち1・2年の保護者が回答していると想定されるので、家庭数としては1,100程度であり、約半数の回答率と想定している。

- (2) 地域移行していく上で懸念されること

検討事項のうち、費用について民間企業に依頼した見積内容を説明（資料2）

意見・質問

- ・見積金額は、今いる部員が全員土日の活動に参加する想定でいいか。
→全員参加の想定である。
- ・スポーツ協会にも依頼することになった場合の指導者の単価は。
→民間と同じ金額にする必要があると考えている。
- ・今後平日も移行していくことになると、これ以上の金額が必要になるので、指導者数や、保護者負担も考えていく必要がある。また、他の業者にも見積依頼する必要があるのではないか。
→もう一つの業者にも見積を依頼しているが、今まで請け負ったことがないので、社内で検討が必要だと聞いている。
- ・保護者負担の金額は子ども一人当たりか。
→子ども一人当たりの金額である。兄弟姉妹がいる場合はそれぞれ必要である。

下記①から⑥の検討項目について協議を行う。

- ① 新しい種目を加えるかどうか
→生徒から要望が多かった新しい種目（バドミントン、ダンスなど）を運動系、文化系から選んで加える。
- ② 教職員（地域の指導者として）の参加について
→原則なし。
→部活動を指導したいという教員が参加できる手だてを考えて欲しい。
- ③ 合同チーム（3中合同部活動）とするかどうか。
→自校にない部活動を希望する場合、他校での活動に参加することは可能。

④ 活動場所

→原則中学校。水泳部（プール）の活動場所は検討が必要。

⑤ 部活動の種目や合同チームとするかどうかなどの見直し基準をどうするか。

→地域移行後に検討する。

⑥ 保護者の負担（送迎・費用）

→すでに練習試合や大会の送迎は保護者をお願いしている。今後も大会等の送迎は保護者に行ってもらおう。

→費用（会費）負担は必要。金額は、週1回（月4回）なら、1,000円～2,000円（上限）。

・保護者負担について、2,000円から増える事になったときに、保護者の理解が得られるかが心配である。

・徴収事務（滞納に対する督促）を学校ですることがないようにしてほしい。

(3) 今後の予定について（別紙）

・地域移行のスケジュールの確認

(4) その他

特になし

4 今後の予定

第4回検討委員会 令和5年10月3日（火）午後2時～ 会議室 G

会議の名称 令和5年度第4回部活動検討委員会

日 時 令和5年10月3日(火)
午後2時から午後4時まで

場 所 会議室 G

出席者

委員長	南中学校長	水野和幸
副委員長	長久手中学校長	名倉健
委員	北中学校長	岡山真崇
委員	東小学校長	福岡和
委員	南中学校PTA代表	■■■■■
委員	北中学校PTA代表	■■■■■
委員	市PTA代表	■■■■■
委員	教育部次長	川本保則
委員	教育総務課指導室長	大井雅夫
委員	生涯学習課長	粕谷庸介
事務局		
	教育総務課指導室指導主事	山本武史
	教育総務課庶務教育係長	宇井正幸
	同専門員	羽木博子

欠席者

委員 長久手中学校PTA代表 ■■■■■

会議の公開・非公開

非公開

- 1 あいさつ
- 2 令和5年度第3回検討委員会のまとめについて
- 3 議題
 - (1) 長久手市地域クラブの運営・活動内容について(別紙)
 - (2) 児童生徒、保護者への周知について
 - ・周知文について(別紙)
 - ・説明会について
 - (3) 児童生徒、保護者へのアンケートについて(別紙)
 - (4) 平日の部活動の地域移行について(別紙)
 - (5) 今後の予定について(別紙)
 - (6) その他
- 4 今後の予定

1 あいさつ

教育長あいさつ

2 令和5年度第3回検討委員会のまとめについて

3 議事

(1) 長久手市地域クラブの運営・活動内容について

中学校の休日の部活動の地域移行について（運営・活動内容）説明（資料1）

意見・質問

- ・ 移行の内容について、細部にわたって決めていく事があると思うが、その内容は次回以降に決めるということでいいのか。
→大枠を資料のとおりと考えている。プロポーザルは大枠でかけていき、詳細については、受託した業者と詰めていくことになる。
- ・ 運営団体を民間としているが、何者いるのか。
→見積は2者からとっている。他にも業者があるようなので、プロポーザルの時には広く公募していく予定である。
- ・ プロポーザルの時期は。
→令和6年1月頃を予定している。
- ・ 運営団体について、民間業者に委託するということでいいのか。
→スポーツ協会とは随時意見交換を行っているが、コーディネートは難しいという話なので、民間業者を考えている。
- ・ 教職員の兼職兼業について、「条件等を全て整えている場合は認めることがある」としているが、条件とは何か。
→残業が月45時間の上限を超えていないこと。

(2) 児童生徒、保護者への周知について

周知文について

周知文の訂正内容については、別紙資料のとおり

- ・ 今後の予定として、令和6年9月に移行は可能なのか。予算が全額つかなかった場合は、モデル校やモデル種目を決めて行うことを考えているのか。
→予算査定はこれからなので、予算によっては、一度に全てを移行するのではなく、徐々に拡大していくという方法も考えていかなければいけない。
- ・ 予算について、事務局の見通しは。
→10月末にはどの程度予算がつくのかわかる予定である。予算によっては、モデル校や種目を限定して移行することも考えていく。

説明会について

会場 各中学校 体育館

説明者 検討委員会（学校、保護者（PTA）、事務局の3者）

内容 決定した内容の説明

保護者からの質問への回答をあらかじめ用意しておく必要あり

（保護者からの質問内容はアンケートの心配すること）

- (3) 児童生徒、保護者へのアンケートについて
アンケートについての意見は、別紙のとおり。
 - (4) 平日の活動の地域移行について（別紙）
 - ・移行時期について、令和7年9月を令和8年9月に1年先送りすることについて、了承を得る。
 - ・資料をもとに今後移行に向けて検討していく。
 - (5) 今後の予定について
スケジュールの確認
 - (6) その他
特になし
- 4 今後の予定
第4回検討委員会 令和6年1月16日（火）午後2時～

会議の名称 令和5年度第5回部活動検討委員会

日 時 令和5年12月14日(木)

午後2時から午後3時10分まで

場 所 会議室G

出席者

委員長 南中学校長 水野和幸

副委員長 長久手中学校長 名倉健

委員 北中学校長 岡山真崇

委員 東小学校長 福岡和

委員 長久手中学校PTA代表 [REDACTED]

委員 南中学校PTA代表 [REDACTED]

委員 北中学校PTA代表 [REDACTED]

委員 教育総務課指導室長 大井雅夫

事務局

教育総務課指導室指導主事 山本武史

教育総務課庶務教育係長 宇井正幸

同専門員 羽木博子

欠席者

委員 市PTA代表 [REDACTED]

委員 教育部次長 川本保則

委員 生涯学習課長 粕谷庸介

会議の公開・非公開

非公開

1 あいさつ

2 令和5年度第4回検討委員会のまとめについて

3 予算の見通しについて

4 議題

(1) 今後の予定について(別紙)

(2) 長久手市地域クラブの運営・活動内容の確認について(別紙)

(3) 児童生徒、保護者、教職員への周知について(別紙)

○周知文(完成版)について(別紙)

○保護者への説明会について(中学校区ごとに、学校、PTA代表、行政で実施する)

○児童生徒への説明会について

(4) 児童生徒、保護者へのアンケートについて(別紙)

(5) 平日の部活動の地域移行について(別紙)

○中学校の教職員で実施する

○休日の地域クラブの成果と課題を把握し、方向性を検討する

(6) その他

5 今後の予定

1 あいさつ

教育長あいさつ

2 令和5年度第4回検討委員会のまとめについて

3 予算の見通しについて

来年度当初予算に満額計上される見込み

4 議事

(1) 今後の予定について（別紙）

部活動地域移行スケジュールを基に、変更点について説明をする。

(2) 長久手市地域クラブの運営・活動内容の確認について（別紙）

質問・意見

- ・教職員の兼職兼業の条件について

→文部科学省の指針に基づいて条件を決めていく。指針では、45時間を上限としている。指針の中には、80時間以内という基準もあるが、教職員の負担軽減のために地域移行していくという側面もあるので、心身の健康の確保ということを考えて条件を決めていきたい。

- ・地域移行した数年間は、過渡期という事で、時間的な条件の幅を持たせるということも考えてもらいたい。

(3) 児童生徒、保護者、教職員への周知について

○周知文（完成版）について（別紙）

質問・意見

- ・周知文について、学校ではメールで配信するのか、印刷して配布するのか。

→学校の実情にあった方法で行ってもらいたい。周知文は、市のHPにも掲載する。

- ・問合せ先はどこか。

→教育総務課指導室が問合せ先となっている。

- ・保護者は、部活動が地域クラブに移行することを認識していないので、長久手市の部活動は地域クラブになることをはっきり示したほうがよい。

→小学校の保護者には、県の部活動地域移行のパンフレットを配布していないので、周知文に併せて配布していこうと考えている。

- ・アンケートの中で、地域クラブの活動について具体的に参加したいかどうかなどを質問しているので、周知文の初めに「地域クラブへの移行について」と記載してもいいのではないかと。

- ・長久手市として、地域移行を目指していることは予算発表前でも変わらない事実なので、来年の夏以降に地域クラブに移行すること、平日は現行の部活動が続くこと

をはっきり言ったほうが良い。はっきりしないと、全てなくなってしまうと誤解する保護者がでてくる可能性もある。

- 保護者への説明会について（中学校区ごとに、学校、PTA 代表、行政で実施する）
 - ・説明会のやり方について、説明する内容によって、中学校区毎にやるのか、一か所でまとめて行うのかなど、どのような形で行うことが良いのか今後考えていきたい。
- 児童生徒への説明会について
 - ・中学校は全校生徒に向けて、小学校では 5・6 年生に向けて学校長から説明を行う。
- 教職員への周知について
 - ・各校で校長より説明を行う。時期は、予算の記者発表が令和 6 年 2 月 6 日（火）に予定されているので、その日以降に行うこととする。

(4) 児童生徒、保護者へのアンケートについて（別紙）

- ・質問文の訂正
- ・質問項目の訂正

(5) 平日の部活動の地域移行について

特になし

(6) その他

特になし

5 今後の予定

第 6 回検討委員会 令和 6 年 1 月 3 1 日（水）午後 2 時～

会議の名称 令和5年度第6回部活動検討委員会

日 時 令和6年1月31日(水)

午後2時から午後3時30分まで

場 所 会議室H

出席者

委員長 南中学校長 水野和幸

副委員長 長久手中学校長 名倉健

委員 北中学校長 岡山真崇

委員 東小学校長 福岡和

委員 長久手中学校PTA代表 [REDACTED]

委員 北中学校PTA代表 [REDACTED]

委員 市PTA代表 [REDACTED]

委員 生涯学習課長 粕谷庸介

委員 教育総務課指導室長 大井雅夫

事務局

教育総務課指導室指導主事 山本武史

教育総務課庶務教育係長 宇井正幸

同専門員 羽木博子

欠席者

委員 南中学校PTA代表 [REDACTED]

委員 教育部次長 川本保則

会議の公開・非公開

非公開

1 あいさつ

2 令和5年度第5回検討委員会のまとめについて

3 議題

(1) 児童生徒、保護者へのアンケート結果について(別紙)

(2) 長久手市地域クラブの運営・活動内容の確認について(別紙)

(3) 児童生徒、保護者、教職員への周知について(別紙)

○周知文(第3報)について(別紙)

○保護者への説明会について

○児童生徒への説明会について(別紙)

○教職員への周知について(別紙)

(4) 今後の予定について(別紙)

(5) その他

5 今後の予定

1 あいさつ

教育長あいさつ

2 令和5年度第5回検討委員会のまとめについて

3 議事

(1) 児童生徒、保護者へのアンケート結果について（別紙）

アンケート結果について説明をする。

(2) 長久手市地域クラブの運営・活動内容の確認について（別紙）

検討委員会において、以下の3項目について確認を行った。

- ・月会費の金額について

2,000円

- ・新たな種目の選定

ダンス、バトミントン、将棋・囲碁

- ・活動時間の検討

3時間程度

(3) 児童生徒、保護者、教職員への周知について

○周知文（第3報）について（別紙）

- ・前回までと大きく違うところは、裏面の地域クラブの説明に民間事業者による運営を予定していると記載されたところである。

- ・配布する対象は、小学生は5・6年生、中学校は全校とする。

○保護者への説明会について

- ・説明会に参加する家庭は、元々部活動に熱心に参加している家庭や部活動に関心のある家庭だと思われる。そうでない家庭は、説明会には参加しないと思われるが、後々聞いていないと言われるのではないかと心配される。

- ・説明会は行うべきである。色々な周知の方法（YouTube配信など）を考え、広く知ってもらうようにする必要がある。

- ・学校行事の中で（PTA総会等）一言部活動について言及するといいいのではないか。→PTA総会は4月下旬に開催されるので、業者選定などのスケジュールを考えると説明会は3月中に行う必要がある。

- ・保護者説明会は3月下旬に1か所（文化の家）で3中学校合同で行う。事務局だけでなく、検討委員会のメンバーも出席する。

○児童生徒への説明会について

- ・中学校は全校生徒に向けて、小学校では5・6年生に向けて学校長から説明を行う。

○教職員への周知について

- ・各校で校長より説明を行う。

(4) 今後の予定について

令和6年度のスケジュールを中心に説明

(5) その他

・児童生徒への説明文について、地域移行の目的が児童生徒のためとなっているが、そもそもの出発点は教員の働き方改革があったと思う。子どもたちから意見が出なければ地域移行はしなくていいわけではないので、教員の働き方改革の部分を述べた方がいいのではないか。

→文部科学省や愛知県のチラシでは、「子どもたち一人一人が、生涯にわたってスポーツ・文化に親しむ事ができるような活動を、地域全体で培っていく」ことを目的としている。

5 今後の予定

第6回検討委員会 令和6年3月4日（月）午後2時～